

かみいち総合病院 助産師ラダー レベル新人 実践例(No.1)

2023年1月16日作成

レベル		レベル新人	
レベルの定義		指示・手順・ガイドに従い、安全確実に助産ケアができる	
倫理的感応力	能力毎の目標	◇ケアリングの意味・主要な概念や理論が理解できる	
	ケアリングの姿勢	行動目標 ケアリングの重要性が理解できる ケアリングの主要な概念をもとに行動できる 実践例 1. ケアリングの定義と5つのカテゴリを理解し、関わることができる 1)「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)ケアリングの項目にて確認する 2)意思決定支援の研修を受講する	
マタニティケア能力	妊娠期の診断とケア	能力毎の目標	◇妊婦とその家族が心身共に安定・快適な生活が送れるように妊娠期の健康診断を行う ◇親となる準備が整えられるよう、適切な健康教育ケアを行う
		行動目標	支援を受けながら、妊娠期の健康生活行動診断・経過診断に必要な情報を理解できる
			施設が有する妊婦とその家族に対するケア方針を理解できる
			支援を受けながら、妊婦と家族に対してケア方針を説明できる
	情報収集	実践例	支援を受けながら、妊婦と家族に対してケア方針に沿って、対応できる
			1. 助言を受けながら、ケアの受け手に必要な身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から必要な情報を収集することができる、フィジカルアセスメントができる 1)看護記録委員会の提出書類(受け持ち患者1事例:アセスメントシート、パターン要約、看護計画、看護要約、形式の監査)で確認する 2. 得られた情報をもとに、ケアの受け手の全体像としての課題をとらえることができる 1)記録委員会の提出書類で確認する 3. 妊婦とその家族が心身共に安定・快適な生活がおくれるように妊娠期の健康診断を行うことができる 1)「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)妊娠期の診断とケア101~103の項目にて確認する 4. 助言を受けながら気がかり妊婦および生命の危機にかかわる緊急性の高い患者の異常を発見できる 1)妊娠週数に合わせた当院独自の観察項目における、診断及び看護記録にて確認する
	アセスメント/問題(ニーズ)の明確化	行動目標	周産期に関連する解剖整理を理解できる
			周産期の代表的な疾患について病態が理解できる
	実践例	支援を受けながら、ハイリスクの要因について理解できる	
		1. 妊娠初期:母体のマイナートラブルについて、助言を受けながら正常な範囲内にあるのか、逸脱しているのかがわかる 妊娠中期:助言を受けながら、体重管理や妊娠合併症について理解することができる 1)栄養士による講義を受け、レポートを提出する 妊娠後期:助言を受けながら、出産や育児に関する不安を知ることができる 2. 日本助産師評価機構のオンデマンド研修 妊産褥婦のフィジカルアセスメント・臨床病態生理・妊娠と糖尿病などを受講する 3. 支援を受けながら、収集した健康生活行動診断・経過診断の情報を分析できる 1)「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)妊娠期の診断とケア104.105の項目にて確認する	
診断	行動目標	支援を受けながら、健康生活行動診断・経過診断によって適切に診断できる	
		1. 支援を受けながら、妊婦・胎児の状態に合わせ標準的な観察ができる。観察する意味と関連項目を理解し、正常から逸脱する場合や異常値(データなど)の出現時に、助言を受けながら対応できる 1)看護記録委員会の提出書類で確認する	
計画立案	行動目標	支援を受けながら、妊婦のニーズに沿って目標を設定できる	
		支援を受けながら、妊婦の状態・問題リスト、目標に一貫性がある計画がたてられる	
実践例	実践例	支援を受けながら、ハイリスク妊婦に関して立案された助産計画を理解することができる	
		支援を受けながら、緊急時に指示された計画を理解できる	
実践	行動目標	1. 日本助産師評価機構のオンデマンド研修 緊急時の対応・メンタルヘルスの研修を受講する 2. 助産ケア基準・標準助産計画を活用し、妊娠経過に沿った個別性のある計画が立案できる 3. 妊婦や家族の思いや考え、希望・パースプランを聞いた際には、その希望や背景、理由についても確認することができる 4. 妊婦や家族の思いや希望・パースプランをケアに関連づけ、ケアに反映させることができる 1)「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)妊娠期の診断とケア106.110の項目および記録委員会提出書類にて確認する	
		1. 母乳支援に関する研修を受講する 2. 富山県母乳育児推進協議会主催の研修に参加する 3. 指示された業務を、助産ケア基準・手順に沿って正しくかつ安全に実践できる 1)「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)妊娠期の診断とケア107の項目および記録委員会提出書類にて確認する 4. 緊急時、指示・支援を受けながら行動できる 1)母体救命講習会・新生児蘇生法およびBLS/AED講習で確認する	
評価	行動目標	助産ケアを行う前に説明できる	
		支援を受けながら、受け持ち妊婦の助産計画に沿ってケアができる	
実践例	実践例	1. 提供した助産ケアの結果を正しく報告できる 助産ケアにおいてわからないことが言える(相談できる)	
		1. ケアを振り返る姿勢を持つことができ、ケアを評価するために妊婦や家族が示す反応を捉えることができる 2. 評価の結果からさらに質の高いケアを創造することができる 3. 連携を働き働きかける適切な時期と方法(記録や口頭)が選択・実施することができる 4. 妊婦の主体性と自己決定が継続されるように伝達ができる 5. 適切な相手(医療チームメンバー、医療施設、地域など)を判断し、選択できる 6. 妊婦や家族が満足できるケアの連携と継続を確立できる 1)「医療機関における助産ケアの質評価:第2版」(日本看護協会)妊娠期の診断とケア108.109の項目および記録委員会提出書類にて確認する	